

魅力発信！えひめ農業NOW

令和3年7月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、7月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

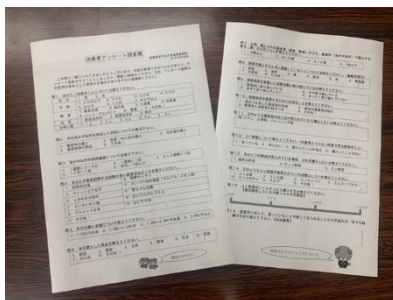
魅力発信！えひめ農業NOW(7月分)

局・支局	室・拠点	No.	標 題	頁
東予	地域	1	新居浜市における地産地消の推進についてアンケート調査を実施	1
東予	地域	2	東予地域の鳥獣害対策強化に向け、えひめ地域鳥獣管理専門員が連携	1
東予	地域	3	果樹園地におけるニホンザルの被害対策を実施	2
東予	地域	4	かき「太天」の大玉づくり支援	2
東予	四中	5	やまのいも産地の再興に向け、“やまじ丸生産振興協議会”を設立、検討会を開催！	3
東予	四中	6	主要作物の安定生産に向け、一日営農相談会を開催！	3
東予	四中	7	四国中央市の茶産地とブレンド茶をブランド化へ	4
東予	産地	8	東予地域の花木産地づくりに知恵を絞る	5
東予	産地	9	東予の花木が国家資格検定試験の花材に採用される	5
今治	地域	10	「今治農業女子」がかんきつ栽培の基本を学ぶ	6
今治	地域	11	上浦地区再編復旧基盤整備園地における未来型農業（機械化体系）の推進	6
今治	地域	12	集落営農法人等を対象としたサトイモ講習会の開催	7
今治	地域	13	「媛かぐや」の管内初のセル苗定植を支援	7
今治	地域	14	農業担い手育成及び魅力発信活動「ブルーベリー収穫とグリーンツーリズム体験会」の実施	8
今治	地域	15	鳥獣害対策について地元大学と連携	8
今治	しまなみ	16	第1回しまなみ産レモン産地活性化検討会を開催	9
今治	しまなみ	17	「しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会」教育旅行の受入れ開始	10
今治	しまなみ	18	しまなみ農業指導班岩城駐在所で、岩城中1年生が農業体験	10
今治	しまなみ	19	地域食材の提供グループと小学生の交流会が開催される	11
今治	しまなみ	20	上浦地区早期復興へ関係機関が進捗情報を共有	11
今治	産地	21	甘長とうがらし産地強化推進連絡会の開催	12
今治	産地	22	大三島で醸造用ぶどう推進協議会を開催	12
今治	産地	23	生産者を交えてしまなみオリーブ産地の方向性を検討	13
今治	産地	24	甘長とうがらし新レシピ試食会の開催	13
中予	地域	25	傾斜かんきつ園地でのドローン防除実証	14
中予	地域	26	なす天敵利用技術の確立・普及に向けて	14
中予	地域	27	ユウカリ・グニーにおける株枯症状株の根域調査結果	15
中予	地域	28	中島の青年農業者がSDGsと島しょ部の亜熱帯農業を学ぶ	15
中予	地域	29	新規就農者等への経営管理勉強会を開催	15
中予	地域	30	農業女子の技術向上に向けて、かんきつ摘果講習会を開催	16
中予	地域	31	女性農業者を対象に鳥獣害対策指導を実施	16
中予	伊予	32	サラリーマン等を対象とした就農相談会を開催	17
中予	伊予	33	集落営農役員会でスクミリンゴガイ防除の実証試験について意見交換	17
中予	伊予	34	広田自然薯組合、天敵利用に挑戦！	18
中予	久万	35	農作業事故防止に向けて、刈払機の安全使用講習を実施	19
中予	久万	36	自然薯部会現地講習会を実施	19
中予	久万	37	農業担い手支援塾の視察を受け入れ	20
中予	久万	38	水稻の病害虫一斉調査を実施！！	20
中予	産地	39	甘平の連年安定生産に向けた摘果講習会を開催	21
中予	産地	40	甘平の調査ほに土壌水分センサーを設置	21
中予	産地	41	「夏は愛媛パクチー」を市場に向けアピール	22
南予	地域	42	さといもセル苗定植講習会を開催	23
南予	地域	43	和菓子原料用びわの安定生産に向けてせん定を指導	23
南予	地域	44	法人化を目指す宇和島市三間町是能地区で経営相談会を開催	24
南予	地域	45	新規就農者の技術力アップに向けニューファーマー講座を開催	24
南予	地域	46	南予地方局管内の「ひめの凜」の高品質生産を目指して	25
南予	地域	47	GAP（農業生産工程管理）に取り組む農業者を支援	25
南予	地域	48	かんきつ産地の創造的復興に向け「立間地区」の生産者がマルドリ栽培を視察	26
南予	鬼北	49	キウイフルーツ花粉ビジネス、かん水設備を改善	27
南予	鬼北	50	女性のための農作業安全講座の開催	27
南予	愛南	51	河内晩柑の密植解消モデル園を設置	28
南予	産地	52	南予の逸品発掘！「木なり河内晩柑」を紹介	29
南予	産地	53	産地を応援！松野のももを南予地方局で販売	30
南予	産地	54	土壌診断に基づくうめの施肥改善を推進	30
八幡浜	地域	55	アシストスーツの生産現場への導入を検討	31
八幡浜	地域	56	マルドリ栽培のためのプロジェクトチーム始動 本格的な調査・研究を開始	31
八幡浜	地域	57	「清見」の摘果剤散布 摘果作業の省力化に効果あり！	32
八幡浜	地域	58	第2回シトラス講座でスマート農業を紹介	33
八幡浜	地域	59	新規就農者の確保に向け、研修生等を対象とした支援事業の説明会を開催	33
八幡浜	地域	60	「西宇和版新型コロナウイルス感染予防に係るガイドライン」の改訂	34
八幡浜	地域	61	女性の活躍推進対策で働きやすい環境を整備	34
八幡浜	大洲	62	道の駅野菜出荷者に対し秋冬野菜勉強会を開催	35
八幡浜	大洲	63	夏秋きゅうり安定生産に向け現地講習会を開催	35
八幡浜	大洲	64	高冷地で「さくらひめ」自家育苗を開始	36
八幡浜	西予	65	青ねぎ生育予測システムの活用に向けた現地研修を実施	37
八幡浜	西予	66	西予市管内の農福連携（いちご作業）の定着に向けて	37
八幡浜	産地	67	令和3年度「第2回南予マルシェ」を八幡浜で開催！	38
八幡浜	産地	68	フィンガーライムの生産安定に向けて基礎生理を学ぶ！	38
農産園芸	高度普及	69	マイクログリーン栽培技術の確立により県内外の飲食店への販売開始	39
農産園芸	高度普及	70	現地映像のライブ配信による普及・JA職員向け技術研修会を開催	40
農産園芸	高度普及	71	閉鎖型育苗施設における「さくらひめ」の育苗実証を開始	41
農産園芸	高度普及	72	かんきつ基盤整備ほ場における緑肥作物栽培後の土壌調査を実施	42
農産園芸	高度普及	73	ひめの凜「出穂管理（穂肥・防除）マニュアル」の策定について	43
農産園芸	高度普及	74	「ひめの凜」高品質生産に向け作物調査研究会を開催	44
農産園芸	高度普及	75	リアルタイム農業普及指導ネットワークシステムの研究機関向け説明会を開催	45
農産園芸	高度普及	76	病害虫の遠隔診断のマニュアル化に向けたテスト診断がスタート	46
農産園芸	企画調整	77	新規採用農業職員を対象に農業大学校派遣研修を実施	47

東予地方局 地域農業育成室

■新居浜市における地産地消の推進についてアンケート調査を実施

- 地域農業育成室は7月26日、JAえひめ未来と連携し、あかがね市四季菜広場において、消費者を対象としたアンケート調査を実施した。
- 同調査は、新居浜市において地産地消を推進し、農家所得の向上を図るため、ミニ野菜の栽培推進を行っており、今後の地域の核となる農産物やマーケットインの取組を検討するため実施したもの。
- 当日は来店者56名に、消費者が求める農産物や加工品、地産地消への取組度合い、ミニ野菜の認知度などの意向を確認した。
- 今後は、今回の調査結果を踏まえ、ミニ野菜を試験販売する10月頃に、ポップ等を活用したPR活動を行いながら、幅広い意見を分析し、新居浜市における地産地消の推進方策を検討する。



アンケート調査票



消費者の意見を聞き取り

■東予地域の鳥獣害対策強化に向け、えひめ地域鳥獣管理専門員が連携

- 地域農業育成室は7月1日、東予地域で活動する「えひめ地域鳥獣管理専門員」9人（以下、鳥獣管理専門員）を対象とした「東予地域えひめ地域鳥獣管理専門員連絡会」を開催し、今年度の活動計画等を協議した。
- 当連絡会は、東予地域の鳥獣管理専門員が、管内の鳥獣被害の課題解決に向けた取組を効果的に実施するため、専門的な技術、知識等の収集や資質向上等を目的に開催したもの。
- 今年度は、各々が収集した動画データ等を共有するとともに、現場における指導資料等を作成するため、年間4回実施することとした。
- また、近年、東予地域で増加するニホンザル被害について、各地域の状況を共有するとともに、効果的な対策技術について情報交換を行い、各市単独の活動に加え、東予地域が一体となり被害対策を進めることを申し合わせた。
- 次回の連絡会は8月上旬に開催するとともに、鳥獣管理専門員が各地域の実情に応じた被害対策を先導、推進していくこととした。



今年度の活動を検討する鳥獣管理専門員



持ち寄った情報を共有

■果樹園地におけるニホンザルの被害対策を実施

○地域農業育成室は7月6、8、16、21日の4日間、西条市丹原町・小松町において、えひめ地域鳥獣管理専門員が中心となり、ニホンザルの被害対策を指導した。

○指導した園地は、4ほ場（ぶどう3ほ場、柿1ほ場）で、各ほ場の被害状況や園地条件に応じた対策を提案するとともに、防護対策に取り組んだ。

○具体的には、①ワイヤーメッシュ柵＋電気柵②ワイヤーメッシュ柵＋通電ネット③通電ネット④簡易保護ネット被覆（防虫ネット）の4種で、ほ場等の制約条件がある中で最も効果が期待できるものを選択した。

○今後は、各園地へ設置したセンサーカメラの映像により、加害獣の侵入状況及び、対策の効果、費用対効果等を総合的に判断し、地域内への普及推進を図る。



農家と対策方法を検討



簡易保護ネットで被覆したぶどう



設置した通電ネット

■かき「太天」の大玉づくり支援

○地域農業育成室は7月12日、「太天」の大玉生産と果実品質向上を図るため、生産者17人を対象とした摘果講習会を開催した。

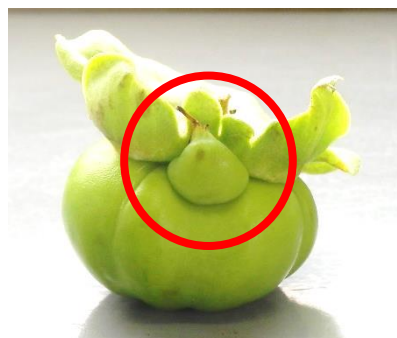
○講習会では、「太天」の特徴であるツノ果（奇形果実）や傷果を摘果するとともに、摘果の目安である時期別の果実横径を示した。

○現在、周桑地域での「太天」の栽培面積は約6.7haで、1果重が550～600gと大きく見栄えがすることから、高単価で取引され、生産者の意欲や関心も高い。

○「太天」は、大玉であることから生育後半に枝折れが発生するため、管理しやすい棚栽培への取組を推進しており、当室では、関係機関と連携し、生産者の園地巡回指導等の技術支援と合わせて、「太天」の産地づくりを推進する。



ツノ果や傷果の摘果方法を指導



ツノ果

東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班

■やまのいも産地の再興に向け、“やまじ丸生産振興協議会”を設立、検討会を開催！

- 四国中央農業指導班は7月13日、生産者代表やJAうま、(株)藤田青果、市、県を構成員とする“やまじ丸生産振興協議会”を設立し、第1回目の検討会を開催した。
- 当協議会は、局予算「やまじ王産地強化事業(H30～R2)」で組織した“やまじ王生産振興協議会”を、事業終了後も引き続き産地強化に取り組むため、新たに再編したもの。
- 検討会では、JAから、やまのいもの販売情勢として、コロナ禍で加工業務用や土産用菓子等の製造販売が減少し、取引量や単価の低迷が続いており、今後も厳しい情勢にある旨の報告を受けた。
- また、今年度の生産面及び販売面での方針等について協議し、生産面では引き続きマルチ栽培技術の構築、贈答用中玉芋生産の拡大、新規栽培者の確保等について共通認識を持った。販売面では、贈答用などの小売販売の拡大、学校給食メニューへの提供などを通じ、知名度アップに向けたPR活動を実施することを申し合わせた。
- 当班は、産地の再興に向け、マルチ栽培技術の構築等の生産対策を行うとともに、関係機関と連携し、知名度向上のためのPR活動を支援する。

※やまじ丸：四国中央市産県育成品種「やまじ王」の商標登録名



検討会で“やまじ丸”再興を協議

■主要作物の安定生産に向け、一日営農相談会を開催！

- 四国中央農業指導班は7月12、14、15日の3日間、JAうまと連携し、管内5カ所での一日営農相談会を開催し、計83人の農業者に対し、水稲やさといも、やまのいも等の施肥、防除及びかん水管理等を指導した。
- 特に、さといもについて、近年問題となっている疫病の防除体系や薬剤散布時の注意点、梅雨明け後のかん水管理等について詳しく説明した結果、農家からは薬剤の具体的な使用方法等の熱心な質問が多く、関心の高さがうかがえた。
- 当班は、今後もJAと連携し、主要作物の安定生産に向けた生産指導を行う。



講習会では熱心な質疑応答

■四国中央市の茶産地とブレンド茶をブランド化へ

- うま茶振興協議会（事務局：四国中央市農業振興課）は7月20日、茶のブランド化へ向けた商標登録出願と秋のブレンド茶販売について協議した。
- 愛称・商品名について、同市広報誌やホームページで公募（7月1日～7月15日）した結果、全国から456点の応募があり、当協議会構成員の得票数の高い文字を用いてイメージとコンセプトが共通した言葉を組み合わせ、愛称の候補を取りまとめた。
- 今後、四国中央農業指導班は、同市農業振興課と連携し、年度内の商標登録に向けた出願準備や秋のブレンド茶販売の常設販売先の確保等について進める。
- なお、当協議会が6月～7月上旬に、産直市等で取り組んだ新茶販売フェアにおいて、茶産地や新たなブレンド茶をPRしたところ、消費者から「産地が近く感じられ、購入機会が得られて嬉しい」と好評を得ている。



新居浜市の銅夢市場でブレンド茶販売



同市の茶産地とブレンド茶紹介パンフレット

東予地方局 産地戦略推進室

■東予地域の花木産地づくりに知恵を絞る

- 東予地方局及び今治支局産地戦略推進室は7月20日、西条第二庁舎で本年度第1回の花木生産対策会議を開催した。
- 当日は、県、市町、農協、高校の関係者23人が出席し、局予算事業「新花材ピットスポラム等生産力強化事業」を活用して、育苗講習会や広報誌への掲載、栽培マニュアルの作成、YouTubeでの動画配信、花屋と生産者の交流会などの実施を申し合わせた。
- また、(株)愛媛花市場から、国産花木は輸入品に比べ、ボリューム感や日持ちが優れることや、愛媛中央花き商業協同組合からは、花束を豪華に見せるわき役のみならず、主役にもなり得るなどの説明があり、出席者一同、国産花木のニーズの高さを再認識した。



本年度の活動計画を説明

■東予の花木が国家資格検定試験の花材に採用される

- 7月24日、県フラワー装飾技能士会による国家資格「フラワー装飾技能士検定」試験が松山市内で行われ、東予の新花材ピットスポラムが花材の一部として採用された。
- これは、産地戦略推進室において、令和元年度から局予算事業「新花材ピットスポラム等生産力強化事業」を活用し、講習会やイベント等で東予花木をPRしてきた結果、鮮度やボリューム感などの品質が評価されたもの。
- 当日は、JAうまの花材を用いて、受験者47人が試験に臨んだ。

※フラワー装飾技能士会

資格取得講習会の開催や経験豊かな技能を紹介することで、技能に対する社会一般の評価を高め、働く人々の技能と地位向上を図ることを目的としている。

東予地方局今治支局 地域農業育成室

■「今治農業女子」がかんきつ栽培の基本を学ぶ

- 地域農業育成室は7月26日、「今治農業女子」7人を対象に、同メンバーのかんきつ園地において、摘果講習会を開催した。
- 講習会では、普及指導員が、品質の特徴や樹ごとの着果状況等に応じて、作業効率を考えながら、出荷先、販売先に適した品質、大きさとなるような果実づくりについて説明した。
- 当室では、昨年度から、同メンバーに対して樹の仕立て方等の栽培技術に関する講習会を開催しており、学んだ技術はそれぞれのかんきつ栽培管理に活かされている。当室は引き続き、参加者の園地を会場として講習会を開催し、かんきつ栽培の基本を学ぶ場を提供することとしている。



樹の仕立て方や果実の着果状況を見ながら摘果方法を学ぶ

■上浦地区再編復旧基盤整備園地における未来型農業（機械化体系）の推進

- 地域農業育成室は、豪雨災害復興を目指す上浦地区再編復旧基盤整備園地において新たな未来型農業（機械化体系）を提案している。
- 管内のほとんどのかんきつ園地では、植栽面積をできるだけ多くするため、園内作業道が十分に確保されておらず、機械化体系による栽培に適していなかったが、未来型農業園地では、一列植えの植栽間隔にすることで、スピードスプレーヤーや軽トラックが樹間を通り機械化が可能となる。
- 基盤整備園地で機械化体系に取り組むことにより、
①作業性の飛躍的な向上②機械化による労働力軽減
③施設化による所得の向上など多くのメリットがある。
- 当室では引き続き、農村整備課と連携し基盤整備園地における未来型農業（機械化体系）を推進していく。



スピードスプレーヤーでの防除

■集落営農法人等を対象としたサトイモ講習会の開催

- 地域農業育成室は、6月29日～30日に集落営農法人等サトイモ生産者8人に対し、梅雨明け以降の夏季の重要な栽培管理となる「防除」と「かん水」を指導する講習会を開催した。
- 管内JAの販売額は約1.2億円と野菜ではキュウリに次ぐ重要品目に成長しているが、一方で、急速な作付拡大により栽培経験が浅い生産者が増加しており、特に作付面積の半数を占める集落営農法人等の大規模生産者において栽培管理技術の未熟が課題となっていた。
- 当室では、今後も、生産者の栽培技術の向上を図るため、安定生産や単収向上等の栽培管理指導を関係機関と連携して取り組んでいくこととしている。



資料に基づき栽培管理技術を説明



「ハダニ類」等病害虫防除を指導

■「媛かぐや」の管内初のセル苗定植を支援

- 地域農業育成室では、今年度から管内でスタートした、セル苗を用いた「媛かぐや」栽培の早期安定生産技術の普及のため、6月29日～7月2日にかけて、適期定植と適正な植付け方法について、JAおちいまばり及び農林水産研究所と連携し、個別巡回指導を実施した。
- セル苗による栽培は、植付け時の深さや定植直後のかん水がその後の生育に大きな影響を及ぼすことから、生産農家5戸を個別巡回し、植付け状況を確認しながら指導した。
- なお、当室では、今後の普及指導に活用するため、生産者の協力を得て、収量や品質と生育期間中の草姿との関連性を検討する生育調査や実証試験にも取り組んでいる。
- また、今治CATVと連携して高校生の就農意識の向上と今治地域の農業の魅力発信を図るため、7月6日、今治南高校園芸クリエイト科の2、3年生31人を対象に、「媛かぐや」の定植指導と品種開発の経緯、特性を紹介する講習会を実施した。今後、12月頃に収穫体験や調理実習の実施を予定している。



適正な定植方法について説明



高校生のセル苗定植体験

■農業担い手育成及び魅力発信活動「ブルーベリー収穫とグリーンツーリズム体験会」の実施

- 地域農業育成室は、昨年度に引き続き、今治CATV、JAと連携して、将来の担い手確保と地域農業の振興を目的に、県立今治南高等学校生を対象に、地域農産物の栽培管理作業体験や、生産者等へのインタビューを通じた地域農業の魅力を発信する体験学習を今年度3回実施する。
- 第1回目となる7月26日は、「(株)森のともだち農園(今治市玉川町)」で、園芸クリエイト科1年生(20人)が、ブルーベリー収穫やツイストパン作りなどのグリーンツーリズムの体験と生産者に農業の魅力を聞き取るインタビューを行った。
- 当日の様子は、今治CATVが30分程度の番組にし、約1か月リピート放送する。
- 生徒からは「新たな今治農業の魅力を知ることができた」などの感想があり、先生からは「教育効果の高まりが期待できる」等の評価を得られた。

番組内容

月日	テーマ	取材場所
7/26	ブルーベリー栽培及びグリーンツーリズム ・収穫体験、グリーンツーリズムの体験学習 ・インタビュー等	今治市玉川町 「(株)森のともだち農園」
11月	媛かぐやの栽培及び加工 ・収穫体験、調理実習、インタビュー等	高校の実習ほ場 今治市内の先進農家
1月	・かんきつ(甘平)のマルドリ栽培 ・収穫体験、先進農家での視察研修、 ・インタビュー等	高校の実習教室 今治市内の先進農家



生産者へのインタビュー

■鳥獣害対策について地元大学と連携

- 地域農業育成室は、ニホンザルの被害対策のため、地元大学である岡山理科大学獣医学部と連携し、野生のニホンザルの群れ等の行動や生態について調査・研究することとなった。
- 同大学が主催する第37回日本霊長類学会大会が7月16日、オンラインで開催され、当室からは、今治地域におけるニホンザルによる被害状況や対策状況について情報提供したところであり、これを機に、ニホンザル対策を効果的に進めるため、同大学や他地域で野生のニホンザルに関わる専門家と連携していくこととなった。



ニホンザルの被害状況等について情報提供(オンライン)

東予地方局今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班

■第1回しまなみ産レモン産地活性化検討会を開催

- しまなみ農業指導班は、7月15日に第1回しまなみ産レモン産地活性化検討会を開催し、夏季（7～9月）出荷について協議を行った。
- 会議では、検討会の参加者に現地実証ほの栽培状況を披露し、栽培の意識を高めるとともに、少加温ハウス栽培者には、夏季レモン栽培への誘導と併せて、暑い時期の大変な作業にはなるが、収穫可能な果実をこつこつと収穫するメリット等を説明し、夏季収穫を呼び掛けた。
- 上島町岩城では、24戸の農家がレモンの施設栽培に取り組んでおり、秋、初冬に開花した花で結実したものが僅かに収穫され始め、7月から株式会社いわぎ物産センター（上島町岩城）を通して販売が始まっている。
- 7月末現在で物産センターに集荷されたグリーンレモンは、約130kg（5戸）で、主に個人向けに販売されており、発送荷口には、夏季レモンの評価調査用ハガキを同封し、需要動向等を把握することとしている。



収穫可能な夏季レモン



産地検討会での夏季レモン栽培実証ほ場説明

■「しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会」 教育旅行の受入れ開始

- しまなみ農業指導班は、しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会が実施する教育旅行受入れにあたり、「新型コロナウイルス感染対策」や「市の屋内施設使用基準」を遵守できる体制づくりを支援している。
- 同協議会は7月19日、立命館宇治高校の生徒19人、教員3人を「塩生キャラメルづくり」体験交流で受入れた。
- 参加した生徒からは、「とっても美味しい!」「家でも作りたい!」などの声があった。また、体験指導者らも生徒たちの喜ぶ顔を見て、大変満足した様子であった。
- 今後も年内に25校の受入れが予定されており、「新型コロナウイルス感染対策等」を踏まえたうえで、しまなみ地域の関係団体や関係機関と連携しながら対応する予定である。



塩生キャラメルづくり

■しまなみ農業指導班岩城駐在所で、岩城中1年生が農業体験

- しまなみ農業指導班は、7月1日に岩城駐在所において、岩城島特産のかんきつ類への理解を深めてもらうため、岩城中学校1年生11人を対象に、早生温州みかんの摘果作業体験やかんきつ栽培の歴史に関する勉強会を開催した。
- 当班から、かんきつ栽培の歴史として、岩城島赤石地区に、昭和29年に旧農事試験場岩城試験地が設置された経緯や、果樹栽培の取組の高まりとともに果樹試験場岩城分場へと改組され現在へ至る経緯と、岩城島住民や近隣の島々のかんきつ生産者の期待とそれにこたえる取組について説明した。また、摘果作業の方法等を説明し体験を行った。
- 体験後の学校によるアンケートでは、「地区の歴史や初めての体験でとても参考になった」と好評であった。
- 当班では、12月に、同生徒たちによる収穫体験を行い、さらにかんきつ栽培の理解を深めてもらう予定である。



岩城中学生の感想



体験風景

■地域食材の提供グループと小学生の交流会が開催される

- しまなみ農業指導班は7月14日、上島町立岩城小学校において、地域食材を学校給食に提供している生産者「うまい会」と小学生の交流会を支援した。
- 当日は、会員5人と町関係者等10人が参加し、岩城小学校3年生16人による夏野菜の栽培体験発表会及び地域食材を使った給食の試食を行い、児童との交流を図った。
- また、生産者及び関係機関による地域食材活用懇談会が開催され、今後の学校給食への地域食材の活用率の向上について意見交換を行った。食材提供生産者の確保・育成と来春の岩城橋開通後の弓削地区への食材提供の方法が課題として挙げられた。
- 当班では、地域食材の学校給食への利用促進と「うまい会」の活動継続による食農教育を支援していく。

※うまい会：上島町岩城に平成13年、普及の呼びかけで学校給食への食材提供を目的に組織されたグループ。今年で20年目を迎え、会員10人で活動している。



児童による夏野菜栽培体験発表会



児童との給食試食

■上浦地区早期復興へ関係機関が進捗情報を共有

- しまなみ農業指導班は、7月27日に平成30年豪雨災害からの早期復興に向けて第2回ワーキングチーム（WT）会議を開催し、園地整備の進捗状況の情報共有と整備後の営農について関係機関の意識統一を図った。
- 当日は農村整備課から、被災園地では測量が始まり、各集落への説明会も順次実施している旨の報告があった。
- また当室からは、マルドリ栽培の導入方法と品目別に必要な水量についての説明を行うとともに、今後、苗木等の確保や補助事業導入に向けて、関係機関で情報を共有することを申し合わせた。
- 当班は、今後、被災園地が島しょ部における未来型果樹農業のモデル園として早期復興を果たせるよう支援を行っていく。



マルドリ栽培方式による必要水量について説明

東予地方局今治支局 産地戦略推進室

■甘長とうがらし産地強化推進連絡会の開催

- 産地戦略推進室は7月2日、今治産甘長とうがらしの産地振興のため、JAおちいまばり会議室において、今治市、JA、生産者、県の関係者14人が出席し、「第1回甘長とうがらし産地強化推進連絡会」を開催した。
- 令和3年度から局予算で取り組む「甘長とうがらし産地強化事業」の取組内容と今年度の活動計画についての説明を行ったうえ、意見交換を行った。
- 参加者からは「整枝せん定や雨よけ栽培での拍動型自動かん装置の使用方法についての検討」、「甘長とうがらしの煮込み料理など多様な使い方の提案」等、栽培技術や販売促進に係る意見が出された。これらの意見を今後の取組に反映させ、更なる産地化を目指していく。



連絡会の活動計画説明

■大三島で醸造用ぶどう推進協議会を開催

- 産地戦略推進室は7月9日、醸造用ぶどうの産地化を図るため、今治市役所大三島支所で「第1回醸造用ぶどう産地化推進協議会」を開催した。
- 同会には、醸造用ぶどう生産とワイン醸造を行っている(株)大三島みんなのワイナリー、JA、今治市、県の関係者11人が出席。
- 当室から今年度の活動計画を説明するとともに、意見交換では、移住希望者への情報提供や栽培体験会を通して、新規栽培者の掘り起こしに取り組んでいくことを申し合わせた。



協議会の活動計画説明

■生産者を交えてしまなみオリーブ産地の方向性を検討

- 産地戦略推進室は7月8日、しまなみオリーブの産地化を図るため、今治市役所吉海支所で「第1回オリーブ特産化推進連絡会」を開催した。
- 会には、今治市長を含めた市関係者、JA、県の関係者に加え、生産団体（ポパイズクラブ、NPO法人アクションアイランド）、企業（(株)瀬戸内園芸、伯方塩業（株））の20人が出席。
- 活動実績報告と活動計画、面積拡大に向けたフォロー体制の整備について検討し、生産者からは農地や補助事業の情報提供や販売支援への要望が挙げられ、連絡会の活動の中で対応することを確認した。
- さらに、意見交換の中で、「植付本数が少ないという作業やコスト面のメリットがある一方で、雑草が繁茂しやすく除草作業の負担が大きいこと」や「コロナ禍で学生ボランティアなどの作業員が不足していること」が浮き彫りとなり、この課題解決に取り組むことになった。



連絡会での今治市長あいさつ

■甘長とうがらし新レシピ試食会の開催

- 産地戦略推進室は7月28日、今治明德短期大学で、同大学生が開発した甘長とうがらしを使用した新レシピの試食会を行った。
- 同会は、甘長とうがらしの地元での認知度向上のため、新しい食べ方提案の場として県が主催し、フードコーディネーター、生産者、JA、今治市、明德短期大学、県の代表9人が、開発された25品（和食6品、中華6品、洋食7品、デザート6品）を試食した。
- 生産者やフードコーディネーターからは「今までにない新しい発想の料理があった」「どれもおいしくよく工夫されている」等意見が出た。
- 評価が高かった料理やデザートについては、今後、JA、今治明德短期大学、県で連携し、地元直売所での商品化や新たな加工商品の開発等を検討していく予定である。



試食会后フードコーディネーターとの集合写真



提案された料理（一部）

中予地方局 地域農業育成室

■傾斜かんきつ園地でのドローン防除実証

- 地域農業育成室は7月12日、松山市堀江のJAえひめ中央新規就農研修センター堀江柑橘研修ほ場で研修生の協力を得て、2回目のドローンによる黒点病防除を実施した。
- これは、伊予柑の超省力化技術の確立・普及を目指した「伊予柑を中心とした柑橘産地復興モデル確立事業」のドローン防除現地実証として調査しているもので、薬液付着ムラの改善を検証する。
- 散布時間（2回平均、各区5a）は、片道飛行区が約5分、往復飛行区でも約6分と慣行の防除作業に比べて大幅な省力化が期待され、計3回の散布を通じて、画像解析による薬液付着状況の確認など、防除効果の検証を進める。
- 当室では、傾斜地での露地かんきつ栽培管理のうち、特に重労働である夏場の防除の省力化を図ることにより、かんきつ王国愛媛を支える伊予柑の生産量維持を目指す。



葉に付着した黄色の細かい点は、高濃度散布した薬剤。5分程度で乾いた後、雨(水滴)により葉の表面に広がる。

■なす天敵利用技術の確立・普及に向けて

- 地域農業育成室は7月1日、県・市町・JAの関係者16人出席のもと、「第1回なす天敵利用技術検討会」を開催した。
- 同会では天敵利用実証ほの設置、天敵温存ハウスの設置等について協議を行い、なすの天敵利用技術の確立に向けて取り組んでいくこととした。
- 施設1か所、露地2か所で10月まで調査を行い、天敵の導入効果を検証していく。
- また、当室は7月14日、JAえひめ中央の研修生8人を対象に、なすの天敵利用技術等についての研修会を開催した。
- なすの重要害虫であるアザミウマ類の防除は、農薬に対する抵抗性が発達しており、対策に苦慮していることから、当室では天敵利用による防除を推進しているところ。
- 当技術の現地実証を行っているJAのなす研修ハウスでは、天敵導入後、農薬散布を行わなくてもアザミウマ類の発生を抑制できており、天敵の導入効果が確認されている。



なすの天敵利用について協議



なすの天敵利用について説明

■ユーカリ・グニーにおける株枯症状株の根域調査結果

○地域農業育成室は7月2日、関係機関と連携し、松山市堀江と難波の2か所のユーカリほ場において株枯症状が見られる株を掘り起こし、根域の調査および植物疫病検査を行った。これは水田転換ほ場で、定植後3～4年で多発して問題となっている株枯症の原因究明を目的としている。

○いずれのほ場においても、症状の現れている株は細根がほとんど無く、地上部が半分ほど生きている株でわずかに細根がある程度であった。

○また、地際部の表皮を取り、イムノストリップ検査を行ったところ、植物疫病の反応はなかったことから、当室は今後、土壌の排水性の改善等により株枯対策技術を確立し、市場から信頼される安定出荷の可能な産地づくりを進めていく。



株枯症状を呈したユーカリの根域

■中島の青年農業者がSDGsと島しょ部の亜熱帯農業を学ぶ

○地域農業育成室は7月14日、中島青年農業者協議会を対象に研修会を開催し、会員らは、松山市が中島をモデルに推進しているSDGsと島しょ部の亜熱帯農業について学んだ。

○会員からは、農業分野のSDGsの取組について、「かん水ポンプの電源に太陽光発電を利用できるか」などの質問があった。

○また、本年4月から中島地域に着任した地域おこし協力隊の藤本周一氏（東京都農業改良普及指導員OB）を講師に、小笠原諸島におけるパッションフルーツやライチなど亜熱帯地域の果樹栽培について学んだ。

○当室は、農業分野におけるSDGsの取組の可能性を探るとともに、温暖化が進む中で、中島でも栽培可能な亜熱帯作物についても藤本氏と連携して情報収集を行っていく。



地域おこし協力隊藤本氏から亜熱帯農業を学ぶ青年農業者

■新規就農者等への経営管理勉強会を開催

○地域農業育成室は7月12日、松山市興居島で近年就農した4経営体を対象に、農業簿記ソフトを利用した開始記帳や経費の仕訳等の勉強会を開催した。

○これは、農業者自らが経営を把握して改善に生かせるよう、農業簿記開始3年未満の認定農業者や新規就農者が結成したグループを対象に、経営管理について研修するもので、今年度5回程度の実施を予定している。

○当日は上記以外の9人の農業者にも、簿記や事業等の情報提供をした。

○当室は引き続き、新規就農者等の経営管理能力の向上を支援するとともに、他地区等でも希望があれば対応していく。



新規就農者グループへの経営管理指導

■農業女子の技術向上に向けて、かんきつ摘果講習会を開催

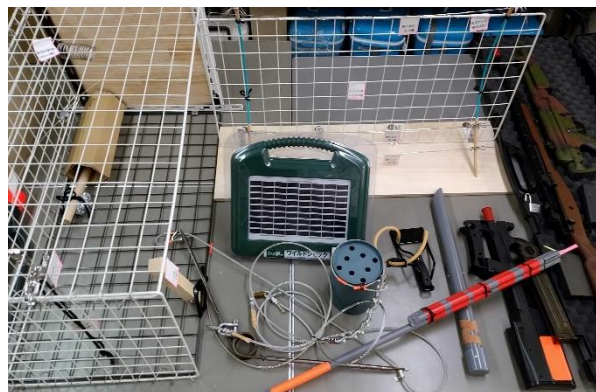
- 地域農業育成室は7月6日、女性農業者の栽培技術向上を図るため、興居島農業女子会「しとらす」の7人を対象にかんきつ摘果講習会を開催した。
- 講習会では、普及指導員が、伊予柑の摘果方法について、葉果比の目安の確認等実技指導を行った。参加者は、互いに枝葉の状況も確認し合いながら実習作業を行うなど、技術向上に意欲的であった。
- 実習後には、熱中症対策や各自が行っている作業装備等の工夫についても情報を交換した。
- 同会は、他の経営事例を学ぶなど、会員相互の情報共有や連携を図ることで自主的な活動に取り組んでおり、当室は、今後も会員の栽培技術向上等の活動を支援していく。



摘果実習

■女性農業者を対象に鳥獣害対策指導を実施

- 地域農業育成室は7月21日、道後地区で女性農業者の組織化を検討している7人を対象に鳥獣被害対策講習を行った。
- 同地区では、ニホンザルやノウサギ、ハクビシンに加え鳥類の被害が問題となっていることから、当室では、侵入防止から捕獲までについて、実際に使用する機材や設備等を用いた体験も含め、学習効果の向上を図りながら、総合的な対策方法を指導した。
- 鳥獣害対策は個々の農家で取組状況が異なることから、今後は個別指導も計画している。
- また、当講習の対象者は、こうした合同での活動の継続を望んでいることから、当室では組織化に向けて活動を支援していく。



講習会で使用した機材等

■サラリーマン等を対象とした就農相談会を開催

- 伊予市農業振興センター新規就農者担当者会[※]は7月4日の日曜日にサラリーマンなど、平日の相談が困難な人を対象とした就農相談会を開催した。
- 当日は事前申込のあった5人の相談者に対し、就農にあたっての希望や問題点を聞き取り、就農支援制度や、相談者の疑問や不安点等に丁寧に説明を行い、個々が求める疑問や不安点が解消できるような相談会となった。
- 当担当者会では、数年後の就農を考えている相談者には、集落リーダーとも情報を共有するなど、スムーズな就農に向けて今後も定期的に情報交換することとしている。



就農希望者との面談

※伊予市農業振興センター新規就農者担当者会

伊予市農業振興課・伊予市農業委員会・えひめ中央農協南部営農支援センター・愛媛県農業共済組合伊予支所・伊予農業指導班で構成

■集落営農役員会でスクミリングガイ防除の実証試験について意見交換

- 伊予農業指導班は7月19日、伊予地区集落営農組織等連絡協議会の役員会を開催し、今年度取り組んでいるスクミリングガイ防除の実証試験について意見交換を行った。
- 管内でのスクミリングガイ発生数は昨年よりも多いと想定され、それに伴い食害被害も多くみられるが、実証ほ場のほとんどは昨年に比べて被害が激減しており、中には全く被害のないほ場もあった。
- その要因は、主要となる農薬の使用タイミング（箱剤、田植え後の防除）の改善と、浅水管理によるものが大きいと考えられる。また、「石灰窒素施用や30日苗の定植なども効果的だ」とする声も上がった。
- 特に、石灰窒素施用は農林水産省でも主要対策としてあげているものの、水管理や畑作物へのリスクを懸念し、取組には消極的だったが、被害の激減から検討したい集落組織もあった。
- 当班では、今回の試験結果を考察し、来年の防除方法を検討していくとともに、関係機関とも連携し、精度がさらに上がるよう努めていく。



実証試験について意見交換



実証試験ほ場

※ 昨年、半分以上食害を受けたが、石灰窒素施用により被害を全く受けなかった

■広田自然薯組合、天敵利用に挑戦！

- 伊予農業指導班は7月9日、砥部町の広田自然薯組合に対して天敵昆虫製剤（ミヤコカブリダニ）の特性や使用方法を指導し、共同のビニールハウスで放飼した。
- 同組合では共同のビニールハウスで、伊予農業高等学校が培養したウイルスフリー苗等を用いて、種イモを増殖させている。ハウスは防虫ネットを張っていることから、ほぼハダニ類のみが問題となっており、防除の省力化と併せて天敵の有効性を検討することとなった。
- 8月には同校生徒を交えた自然薯組合の研修会が計画されており、天敵昆虫製剤の効果を確認する。



天敵を放飼する組合員

中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班

■農作業事故防止に向けて、刈払機の安全使用講習を実施

- 久万高原農業指導班は7月25日、畑野川地区明杖活動組織等20人を対象に、刈払機の安全使用と点検整備講習、無線刈払機の実演を行った。
- 当講習は、農作業事故件数が多い刈払機の安全使用と点検整備を啓発し、事故防止を図るため実施したもの。
- 農作業事故の多くが慣れによる油断、あせりや点検整備の不十分さが原因で発生していることを当班から説明し、農業者は理解を深めていた。
- 当班では、今後も農業機械に不慣れな女性農業者等を対象に、農業機械の安全使用を啓発し、農作業事故防止を図っていく。



刈払機の安全使用講習



無線刈払機の実演

■自然薯部会現地講習会を実施

- 久万高原農業指導班は7月27日、農業経営者協議会自然薯部会員4人を対象に現地講習会を行った。
- これは、会員間の交流を兼ねて毎年開催しているもので、今年は新たに地域おこし協力隊員が栽培を開始し、自然薯部会員の指導のもと順調に生育しており、当班は病害虫管理など後半の品質向上に向けた取組を指導した。秋に収穫される自然薯は味が良く、道の駅でも人気の商品となっている。
- 当班では、今後も定期的な栽培指導や生産者の拡大を推進していく。



互いの園地を視察し、意見交換する会員ら

■農業担い手支援塾の視察を受け入れ

- 久万高原農業指導班は7月27日、農業担い手支援塾の野菜コース受講生9人の視察研修において、久万高原の主要品目であるトマトや白ネギの栽培技術等について講習した。
- これは農業大学校が開催する農業担い手支援塾のカリキュラムの一環として実施されたもの。
- 当班からは久万高原町の野菜生産の現状を紹介したほか、技術普及グループが担当する各作物の実証ほ場において、品種比較や新技術の実証等の説明を行った。
- 参加者からは、「アスパラガスに興味を持ったので、もっと詳しく栽培方法を知りたい」「いろいろな品目を栽培しているので、今回の視察はとても参考になった。また見学に来てよいか」などの意見が出され、就農に向けた意欲がうかがわれた。



トマトの細霧冷房施設を説明



白ネギの品種比較を説明

■水稻の病虫害一斉調査を実施！！

- 久万高原農業指導班は7月13日、昨年度管内の水稻でトビイロウンカによる坪枯れ症状が初めて確認されたことから、令和3年産栽培に向けた対策を講じるため、関係機関に働きかけ、当管内では今年度から新たに病虫害一斉調査を開始した。
- 調査では、関係機関20人が5班に分かれ55か所のほ場で、払落しや捕虫網によるすくいとり及び100株あたりの発生状況の見取りを行った。今回の調査ではトビイロウンカの発生は確認されなかった。
- 8月10日に2回目の調査を実施予定で、当班では昨年度の傾向を踏まえ、病虫害防除所、JA等と連携し、今後もトビイロウンカ等の発生に注視し、被害の未然防止に取り組んでいく。



ほ場で行われた調査

中予地方局 産地戦略推進室

■甘平の連年安定生産に向けた摘果講習会を開催

○産地戦略推進室は6月下旬から7月上旬にかけて、産地づくりビジョン「甘平の連年安定生産と『愛媛Queen スプラッシュ』の出荷拡大」の一環として、「甘平」が多く栽培されている地域（浅海、下灘、砥部）を対象にJAえひめ中央と連携して摘果講習会を合計8回開催し、生産者115名が出席した。

○講習会では、当室担当者が気象と果実生育の関係を始め、果実肥大と樹勢維持のために実施する「あら摘果」と「仕上げ摘果」の作業ポイントのほか、現地実証を行っている「大枝別交互結実法」や土壌水分に着目したかん水管理について説明。生産者やJA指導員からは「大枝別交互結実法処理後のせん定はどうか」といった質問や、「今年はかん水頻度を上げてやってみたい」など、関心の高さがうかがえた。



「甘平」の摘果講習会

○当室では引き続き、管内の農家園地に設置した実証ほ場で現地実証に取り組み、講習会等を通して産地に成果を波及することで「甘平」の連年安定生産を目指す。

■甘平の調査ほに土壌水分センサーを設置

○産地戦略推進室は7月14日、甘平の裂果抑制に向けて園地条件に合わせたかん水方法を検討するため、生産者の協力の下、管内の調査ほ1園地に、地下の土壌水分（pF値）が確認できるテンションメーターを設置した。

○今後は、生産者と連携をとりながら、土壌水分値を基に裂果を誘発する土壌水分の急激な変動を避けるようなかん水を実施し、裂果の軽減効果と園地条件に適したかん水方法の検討を行う。

○当室ではその他にも、かん水方法の変更や土壌改良を実施した3園地に土壌水分センサーを設置しており、処理の違いによる土壌水分の変化と裂果への影響を調査し、これら調査の結果を基に、園地条件に合わせた裂果対策の事例を蓄積し、中予地域の「甘平」の連年安定生産を目指す。



テンションメーターの設置の様子



設置後のテンションメーター

■「夏は愛媛パクチー」を市場に向けアピール

- 産地戦略推進室は、JAえひめ中央と協力して中予地域が「パクチーの夏季生産地」であることを市場等にPRするパンフレットを作製。7月26日から全ての段ボールに入れて、県内・関西方面に出荷を開始した。
- このパンフレットの台紙には、夏季の品質低下防止が期待できる鮮度保持シート「セルアシスト*」を使用しており、今後は、市場からの品質評価等を調査しながら、次年度以降の使用を検討することとしている。
- 当室では、今年度の夏季出荷を3 t程度と見込んでおり、周年出荷の要となる夏季出荷が安定的・継続的に行われるよう栽培・流通の両面から指導を徹底する。



PR・鮮度保持パンフを入れて出荷

※セルアシスト：カビ・細菌の抑制、エチレングスの影響低減に効果があるとされる鮮度保持シート

南予地方局 地域農業育成室

■さといもセル苗定植講習会を開催

- 地域農業育成室は7月1日、農林水産研究所と連携し、JAえひめ南三間育苗センター及び管内生産者ほ場で、さといもの親芋副芽を利用したセル苗定植講習会を開催した。
- この取組は、管内が種芋供給基地として優良種苗を生産していくため、「種用サトイモ生産体制確立事業」の一環で技術の普及・定着を図っているもの。
- 当日は、セル苗作成の作業経過や、定植のポイントに加え、年間の栽培管理についても説明した。出席した生産者からは、「セル苗の定植後の管理はどのようにすれば良いか」など、活発な質問や意見が出た。
- 当室は、今後も関係機関と連携しながら、地域一丸となった生産者の確保・育成に取り組む。



講義



定植作業

■和菓子原料用びわの安定生産に向けてせん定を指導

- 地域農業育成室は7月5日、JAえひめ南と連携して、宇和島市西三浦で加工用びわのせん定講習会を開催し、連年結果と作業性向上を目的としたせん定技術を参加者5人に指導した。
- せん定を実演した園地(平成26年植栽)では、初期収量を上げるため密植的に植栽していたが、樹容積が拡大し今年から成木に近い収量が得られるようになったことから、今後は、樹同士が接して下枝が日照不足にならないよう、数年かけて植栽本数を減らす縮伐方法について実演を交え詳しく説明した。
- 当室では、今年度から新たに栽培者1人が加わったことから、優良園地の視察や個別指導を行い、安定生産につなげていく。



縮伐の実演



枝の整理

■法人化を目指す宇和島市三間町是能地区で経営相談会を開催

- 地域農業育成室は7月9日、30戸で農事組合法人の設立を目指す宇和島市三間町是能地区で、集落リーダーら14人を対象に法人化に向けた経営相談会を開催した。
- これまで、同地区では法人化に向けた検討を重ねてきたところであるが、専門家のアドバイスを受けたいという農業者の意向を踏まえ、(公財)えひめ農林漁業振興機構と連携し、税理士を招いて、日頃からの疑問などを相談した。
- 参加者からは、「構成員への給与や構成員が所有する農機具等を法人が利用する場合の取扱いがよくわからなかったが、税理士に相談することで法人化への不安が解消された」といった声があがった。
- 当室は今後、同地区の法人化をサポートし、優良農地を継続して耕作できる環境づくりを支援していく。



法人化に向けた経営相談会

■新規就農者の技術力アップに向けニューファーマー講座を開催

- 地域農業育成室は7月15日、新規就農者の栽培技術や経営管理能力の向上を図るため、認定新規就農者ら16人を対象に宇和島市吉田町でニューファーマー講座を開催した。
- 当日は、吉田公民館でかんきつ経営を行う上での労働安全に関するGAP研修と、参加者のほ場で甘平、ポンカン、温州みかんの摘果講習を実施。
- 参加者からは「GAPについてもっと勉強してみたい」、「葉果比など摘果のポイントがよく分かった。早速、自分の園地でも実践したい」などの声があがった。
- なお、今回、摘果した樹で仕上げ摘果やせん定講習を行い、1年を通して観察しながらかんきつ栽培の技術力アップを目指すこととしている。
- また、当室では年間5回の講座開催を予定しており、今後は6次産業化や肥料・農薬に関する座学なども織り交ぜながら、担い手の定着支援を進めていく。



GAPのポイントについて解説



温州みかんの摘果を指導

■南予地方局管内の「ひめの凜」の高品質生産を目指して

- 地域農業育成室は、「ひめの凜」の高品質生産に向け、個別巡回指導等を進めている。
- 管内（宇和島市、鬼北町、松野町、愛南町）の栽培面積は、昨年より5ha増の17.5haで、田植え以降、病害虫の相談対応や中干し等の指導を行い、7月16日時点では幼穂形成が5日程度、平年に比べ遅れているが、生育は概ね順調に推移している。
- 一方、16日、宇和島市三間町内で開催の穂肥診断講習会（農産園芸課主催）には、管内の認定栽培者30人が参加し、品質向上に向けた穂肥の施用やトビイロウンカ対策について学んだ。
- 当室は今後、生育診断に基づく穂肥の適期施用や病害虫対策などについて個別指導を徹底しながら、「ひめの凜」の高品質安定生産を進める。



講習会で幼穂の確認方法を研修

■GAP（農業生産工程管理）に取り組む農業者を支援

- 地域農業育成室は7月21、28日、環境保全型農業直接支払交付金の支援対象者である宇和島市三間町うまい米作り会、農事組合法人波岡集落営農組合の構成員ら19人を対象に、GAP研修会を開催した。
- 両日とも、当室のGAP指導員が環境保全や労働安全などGAPに関するポイントについて説明した後、実際に農業者の倉庫でリスクとなりうる事例を指摘したうえで、解決策を検討。
- また、26日には農産園芸課と連携し、H29年にグローバルGAPを取得した農業者の更新審査に係る内部審査を実施した。
- 当室は、今後も農産物の安全を確保し、より良い農業経営が実現できるよう農業者をサポートしていく。



GAPのポイントについて解説



倉庫内でリスクとなる事例を確認

■かんきつ産地の創造的復興に向け「立間地区」の生産者がマルドリ栽培を視察

- 地域農業育成室は7月27日、農村整備課と連携し、園地の再編復旧に取り組む宇和島市吉田町立間地区のかんきつ生産者9人を対象に、八幡浜市真穴の温州みかんマルドリ栽培園で研修を実施した。
- 本研修は、同地区の生産者が平成30年7月豪雨災害からの創造的復興を目指すうえでの一手段として、マルドリ栽培の導入を予定していることから、開催したものの。
- 当日は、生産者から実際にマルドリ栽培の基本技術や、導入による収量アップや品質向上などのメリットについて説明を受け、参加者からは「生産者から生の声を聞けて大いに参考になった」などの声があがった。
- 当室は、今後も再編復旧に伴い新植する品種の選定やマルドリなどの栽培技術指導など営農面でのサポートを通じ、かんきつ産地の創造的復興を後押しする。



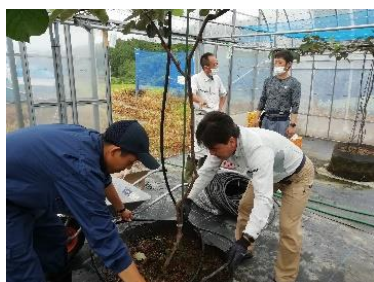
マルドリ栽培を学ぶ生産者

※マルドリ栽培：国が開発した技術で、プラスチックシートによる「マルチ」と点滴かん水施肥「ドリップ」を組み合わせ、果実の高品質化・多収を実現する栽培方法

南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班

■キウイフルーツ花粉ビジネス、かん水設備を改善

- 鬼北農業指導班は、キウイフルーツ花粉採取用雄樹の栽培から精製、販売までの新たなビジネスモデル（実施主体：「松野町キウイフルーツ花粉事業組合」）を支援しており、7月16日に農家1戸のかん水設備を改善した。
- この園地は水田であるため、ルートラップ栽培で、各樹に配管を伸ばし点滴かん水を行っていたが、頻繁に起こるゴミ詰まりやかん水ムラによる生育のバラツキが発生していた。
- そこで、当班は果樹研究センターと協力し、配管を有孔チューブに変更する指導を行い、ハウス2棟分（67樹）を設置し直し、ムラなく株元全体へのかん水が可能となった。
- 当班は、引き続き令和4年度の本格的な花粉精製の開始を目指し、苗木の育成指導を行い、全国初となるキウイフルーツ花粉の産地づくりを支援する。



有孔チューブ設置の様子



渦巻き状に有孔チューブを設置

※ルートラップ栽培：通気性、排水性に優れているポリエステル製不織布ポットに培土を入れ、苗木を植え付ける根域制限栽培

■女性のための農作業安全講座の開催

- 鬼北農業指導班は7月21日、管内の女性農業者24人を対象に農作業時の日焼け防止対策や農作業前後の安全対策について講座を開催した。
- 女性ならではの農作業時の悩みである「日焼け防止対策」や、セルフハンドマッサージなど実技やデモンストレーションを交えてわかりやすく説明し、一つからでも日々の農作業時に役立てられるようわかりやすく説明を行った。
- また、梅雨明け後の猛暑に備え、空調服や熱中症予防飲料の紹介と、草刈りや防除等農作業後に自宅に戻らずに使用できる「簡易シャワー室」の見学を行った。
- 参加者からは、「今日の講座で学んだことを日々の生活に取り入れていきたい」との多くの声があった。
- 当班では引き続き、農作業事故回避に必要な知識の習得及び安全意識の醸成等を推進することを目的として講座を開催する。



熱心に聞き入る女性農業者



指導班に設置している簡易シャワー室

南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班

■河内晩柑の密植解消モデル園を設置

- 愛南農業指導班は7月7日、JAえひめ南と連携し、愛南町菊川地区の河内晩柑で密植解消モデル園を設置した。
- 河内晩柑は樹勢が強く枝の伸長が旺盛であることから、適切な管理をしなければ密植となり、横枝の枯れ上りと高樹高化につながるなど作業性の悪い園地となる。
- そこで当班では、密植解消によるメリットを実感し、実践に向けた生産者の行動を促すため、同モデル園に植栽された成木樹の約45%を縮間伐した。
- 園主からは「今まで園内は通りにくく、病害も多く、収穫に時間がかかっていた。これで農薬散布もやりやすくなり、来年度の収穫が楽しみ」との意見があった。
- 当班では、今後同モデル園の作業時間や収穫量調査など縮間伐の効果を測定するとともに講習会に活用するなど、広く生産者に周知し、作業の省力化を進めていく。



列間伐実施状況



モデル園を上空より撮影、密植が解消

南予地方局 産地戦略推進室

■南予の逸品発掘！「木なり河内晩柑」を紹介

- 産地戦略推進室は7月13日、「南予の農産物販売促進事業」で実施している『南予の逸品発掘とPR』において、逸品の一つに選定した河内晩柑の木なり栽培を紹介するため、委託事業者の(株) エス・ピー・シー と愛南町の河内晩柑生産者を訪問し、取材のサポートとアドバイスを行った。
- この取組は、知名度は低い商品として魅力があり、特色のある農産物や加工品等を「南予の逸品」としてPRするもので、今回の「木なり河内晩柑」を含む7品目について、メディアによる紹介や、商品のブラッシュアップ等を行うことにしている。
- 当日は、生産者から木なり栽培の特徴や味の違いなどを説明した後、レポーターが河内晩柑の収穫体験や試食等を実施。当室からは河内晩柑の栽培状況やアピールポイントなどをアドバイスした。
- 今回の取材内容は、「タウン情報まつやま」のWebサイトや、SNS、スマホアプリ「えひめのあぷり」等に「南予みらい逸品堂」として掲載されるほか、南予地方局農業振興課のfacebook「南予の農林水産物PRサポートチーム」にも掲載しPRする。



出荷時期を迎えた木なり河内晩柑



生産者への取材

※木なり河内晩柑：開花後も果実を木に成らしておき、初夏から夏にかけて収穫・出荷する栽培体系。7～8月に収穫したものは、酸と水分が程よく抜け、さっぱりとした味わいが特徴。

■産地を応援！ 松野のももを南予地方局で販売

- 産地戦略推進室は7月14日、5月の降雹により被害を受けた松野町のもも生産者を支援するため、南予地方局の職員を対象にももの販売を実施。
- 当日は、昼の休憩時間に松野町の「道の駅 虹の森公園まつの（かごもり市場）」が来庁し、1階ロビーで被害を受けたももなど約200個を販売、30分ほどで完売した。
- 松野町は県内最大のもも産地で、本年産は降雹の影響により減収や傷が付くなどの被害が見られたが、成熟期に降雨が少なかったため食味は良好であり、同店では7月下旬頃まで販売される予定とのこと。



松野町産のもも



職員への販売

■土壌診断に基づくうめの施肥改善を推進

- 産地戦略推進室は、土壌診断に基づく適正な施肥改善に繋げるため、7月16日および27日に松野町のうめ生産者を巡回し、園地の土壌を採取。
- これは昨年、うめ生産者を対象に実施した栽培状況調査の結果、肥料や土壌改良材の施用量が少ない傾向が見られ、樹勢の低下や着果不良の一因と考えられることから、うめ生産者で組織する「松野町梅振興会」に働きかけ、同会と鬼北農業指導班の協力を得て実施することになったもの。
- 両日で11戸・16か所の土壌を採取し、今後、分析結果に基づき個別指導を行うとともに、管理講習会等で産地全体の傾向を共有し、うめの安定生産に向けた適切な肥培管理に繋げることをしている。



うめ園地の土壌を採取

南予地方局八幡浜支局 地域農業育成室

■アシストスーツの生産現場への導入を検討

- 地域農業育成室は今年度、八幡浜市川上、真穴、向灘地区の青年農業者組織と連携し、温州みかんの収穫期に簡易タイプのアシストスーツの効果実証を行うこととし、7月14日に打合せを行った。
- 西宇和地域では、令和元年度から2年間、国の「スマート農業加速化実証プロジェクト」で、アシストスーツの軽労働化の実証を行ってきた。その結果、動力タイプのアシストスーツは、選果・出荷時の持ち上げる作業に関しては軽労働効果が高いとの評価を得たが、様々な障害物がある園地では、簡易タイプの方が動きやすく、実用性が高いことが明らかとなったことから、青年農業者への導入を図る計画。
- 当室は効果実証において、簡易タイプのアシストスーツ数機種を、青年農業者の園地等で、農業資材運搬時、選果・出荷時に使用し、疲労度軽減効果を評価し、導入機種決定の参考とすることとしている。



アシストスーツの効果実証について検討



実用性が高い簡易タイプのアシストスーツ

■マルドリ栽培のためのプロジェクトチーム始動 本格的な調査・研究を開始

- 地域農業育成室はJAにしゅうわと連携して、柑橘の高品質・安定生産技術としてマルドリ栽培を推進している。
- このような中、本年から八幡浜市真穴地区で農地整備課の「農地耕作条件改善事業」を活用して、南予用水の水源を利用したマルドリ栽培の導入が大規模に始まる見込みとなった(3年間で約22haの計画)。
- そのため当室では7月1日、先進的農家、JAにしゅうわと連携してプロジェクトチームを組み、施肥時期やかん水量等について調査・研究を行い、技術を習得していくこととした。
- 今後、これら調査・研究の結果を基に、栽培管理技術を栽培マニュアルに取りまとめ、指導者の技術の向上を図りながら管内農家に普及していく予定である。



簡易土壌水分計による土壌水分調査

■「清見」の摘果剤散布 摘果作業の省力化に効果あり！

- 地域農業育成室は、伊方町三崎地区の主要品目の「清見」に対して、摘果剤（ターム水溶剤）の散布による摘果作業の省力化を試験しており、効果的な散布方法について検討、普及を図っている。
- 同地区では近年、高齢化・兼業化の進展などで、認定農業者等に栽培面積が集中する傾向にあり、適期に摘果作業が行えないことが隔年結果の大きな要因の1つとなっている。
- 5月25日に摘果剤を処理した結果、粗摘果で全摘果する内・裾部の散布では、7月上旬時点で、95%程度が落果し、無処理区より5%程度多く落果した。また、樹冠外周部の散布でも95%程度が落果し、無処理区と比べて14%程度高くなったことから、摘果の省力化に十分な効果が認められた。
- 当室は、この結果を資料にまとめ、各種講習会等で報告し、来年の処理に向けて農家への普及を推進する。



無処理の枝



ターム剤を散布した枝

ターム水溶剤散布が「清見」の生理落果促進に及ぼす影響
※丸囲みが果実、矢印より先端がターム水溶剤散布部位

■第2回シトラス講座でスマート農業を紹介

- 地域農業育成室は7月13日、先月に引き続き、就農3年目までの青年農業者の技術力向上を図るために実施しているシトラス講座のビデオ収録を行った。今回は、現在、八西地域で取り組んでいるスマート農業のうち、気象ロボットを紹介。
- 気象ロボットにより、①雨量 ②気温 ③湿度 ④日射量 ⑤土壌温度 ⑥土壌水分 ⑦土壌ECをモニタリングしながら、データに基づきかん水の有無や施肥・かん水量等をスマートフォンやパソコンで調整・指示することで、かんきつの高品質・安定生産を実現できる。
- 収録は八幡浜市真穴地区で行い、気象ロボットの他、マルドリ設備を実物を用いて効果的に説明した。
- なお、今回の講座は8月上旬に八西CATVで放送する他、県公式YouTubeにも掲載する予定。



シトラス講座で気象ロボットを紹介

■新規就農者の確保に向け、研修生等を対象とした支援事業の説明会を開催

- 地域農業育成室は6月25日及び7月1日、八幡浜市、西予市で就農に向けて研修を実施しているJA新規就農研修生及び研修希望者6人を対象に、国の農業次世代人材投資事業の説明会を開催した。
- 本事業は、就農に向けて必要な技術を習得するために研修を受ける研修生を支援するもの。
- 交付対象者の要件や申請書の記載方法、必要となる添付書類、申請の際の注意事項などを説明するとともに、個別の質問にも順次対応し、後日、個別に申請書作成指導を行った。
- 当室は、今後も次世代を担う農業者になり得る意欲の高い研修生に対して、全面的なバックアップを継続して行う。



支援事業の要件について説明

■「西宇和版新型コロナウイルス感染予防に係るガイドライン」の改訂

- 地域農業育成室は、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度も県外アルバイトによるみかん収穫の労働力確保が困難になると想定されることから、西宇和みかん支援隊と連携して十分な労働力が確保できるよう、準備を進めており、7月2日、令和3年度版「西宇和版新型コロナウイルス感染予防に係るガイドライン」の改訂について、JAにしようの労働力確保担当者、八幡浜保健所職員とともに対応を協議した。
- その結果、県外アルバイトのPCR検査については、昨年度は来県直後に集団検査を1回実施していたが、今年度は来県前と来県後にアルバイト1人につき2回の検査を実施することとし、陰性が確認出来てから作業する計画や、密を避ける宿舍の管理、ガイドライン遵守とともに各自の行動自粛を行うこととした。なお、来県1週間後にも抗原検査を実施する。
- 当室では今後、感染拡大が起こった場合には、感染対策を強化できるよう、農家とアルバイトに改訂したガイドラインの遵守と行動自粛について指導していく。

■女性の活躍推進対策で働きやすい環境を整備

- 地域農業育成室は、みかん収穫の労働力が十分に確保できるよう、管内6地区に設立されている雇用促進協議会の活動を支援している。
- このような中、高野地地区雇用促進協議会は女性の労働力確保を目指して、今年度、国の「農業労働力確保緊急支援事業」のメニューである女性活躍推進対策に応募し、6月24日に事業実施主体の(株)マイファームから採択された。
- 採択に当たっては、地域で女性活躍推進計画を作成するよう義務付けられており、当室では雇用促進協議会や高野地フルーツ倶楽部とともに、女性活躍推進に向けた起業活動や女性が働きやすい環境整備について計画と目標の作成指導・助言を行った。
- また、7月6日には交付申請書作成に向けた検討会を開催し、女性の視点を活かした宿泊施設環境整備（更衣室や休憩所の整備）やアルバイト受け入れ体制づくり、販路開拓やSNS・メディアによる活動情報発信等の具体的な計画を作成支援した。今後、(株)マイファームに提出して事業を実施する予定。



女性が働きやすい労働環境整備検討会

八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班

■道の駅野菜出荷者に対し秋冬野菜勉強会を開催

- 大洲農業指導班は7月15日、内子町の道の駅「フレッシュパークからり」の野菜出荷者に対し秋冬野菜勉強会を開催した。
- 集合研修は2年ぶりであったため、生産者50人が参加する盛況ぶりで、急遽会場を変更して行われた。
- 近年、気候変動の影響を受け栽培に苦慮する品目も多くなっている中、直売所の魅力である品揃えの確保に向けた様々な野菜の紹介、時期ごとの栽培ポイントや管理作業の徹底など、スライドを交えながら分かりやすく講義。
- 感染症対策で30分の短い講義であったが、久しぶりの対面での講習会ということもあり、熱心に受講する参加者からは多くの質問が出された。
- 今後、出荷者向けにいちご栽培勉強会、春夏野菜勉強会を予定しており、当班は、引き続き地域の人的交流の核となる直売所の魅力づくりの支援を行っていく。



熱心に説明を聞く参加者

■夏秋きゅうり安定生産に向け現地講習会を開催

- 大洲農業指導班は7月19、20日、JA愛媛たいきと連携し、きゅうり栽培講習会を部会5支部で実施、32人が参加した。
- 当班は、JAや生産農家と共に、主力品目「きゅうり」の夏越し栽培における収穫延伸技術確立を目指しており、8月以降に安定的に出荷するためのポイントとして、定植後の高温対策と病害虫対策の2つを推進している。
- そのため講習会では、地温抑制マルチや定植後の通路散水などの高温対策と、土壌消毒剤の使用や定植後1か月の徹底防除、防虫ネットなどの病害虫対策などを詳しく説明した。
- 8～9月出荷は、例年単価が高く推移するが、高温期の管理が難しく、台風の影響や病害虫が多発するため作柄が安定しないことから、当班は個別巡回や講習会を通じて栽培管理の徹底を周知していく。



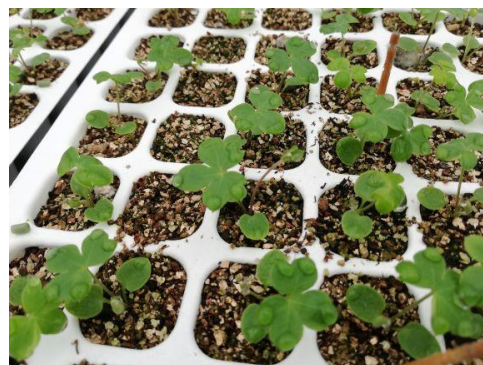
講習会で夏越しきゅうりの栽培ポイントを説明

■高冷地で「さくらひめ」自家育苗を開始

- 大洲農業指導班は、県育成デルフィニウム「さくらひめ」栽培における苗代削減に向け、生産者と共に自家育苗に取り組んでいる。
- 内子町の小田深山（標高900m）の冷涼な気候を生かして、初の試みとして冷房を用いない低コスト育苗を目指すもので、「さくらひめ」2,000粒を播種し育苗を開始。
- 8～10月定植の作型では冷房育苗が必須であり、今回の自家育苗により苗に係るコストは1/3程度に削減できる見込み。
- 6月11日に播種を行い、7月9日時点で順調に生育しており、今後8月中旬に定植、10月末から収穫が始まる予定。
- 当班は、定植までの苗の生育状況や定植後の収穫量などを継続的に調査し、コスト低減策の有用性を検証していく。



生産者と苗をチェック



順調に生育するさくらひめ

八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班

■青ねぎ生育予測システムの活用に向けた現地研修を実施

- 西予農業指導班は、(株) 百姓百品と連携し青ねぎの計画出荷に向けた生育予測システムの活用を検討しており、7月19日に香川県のシステム会社を訪問し、現地研修を実施。
- 同社では香川県と共同で青ねぎ生育予測システムを開発しており、システムの作成に必要な西予市の気象データや地域の実態に即した生育量の算出方法など、活用に向けたアドバイスを受けた。
- また、収穫期の予測値と実測値との差異を確認するなど、システムの精度向上に向けて、引き続き打合せの機会を設けて検討することとした。
- 今後は、(株) 百姓百品と課題や改善点の整理等を進め、システムを開発している香川県農業試験場とも連携しながら、本格的な活用を目指す。

・「入カシート」シート

60cm以上で収穫可										生育予測変動率(%)										生育予測変動率(%)															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	AV	AW	AX	AY	AZ	BA	BB	BC	BD	BE	BF	BG	BH	BI	BJ	BK	BL	BM	BN	BO	BP	BQ				
1										0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	
2										0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95
3										0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90

・「集計(収量)」シート

60cm以上で収穫可										生育予測変動率(%)										生育予測変動率(%)														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	AT	AU	AV	AW	AX	AZ	BA	BB	BC	BD	BE	BF	BG	BH	BI	BJ	BK	BL	BM	BN	BO	BP	BQ		
1	*REP	Bcm以上で収穫								0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	
2		2018	2020							0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95
3	光産	産量	定額日	長さ(m)	生育率(%)	収穫高(cm)	収穫高(kg)	収穫高(t)	収穫高(t)	0.9/2.30/2.40/2.50/2.60/2.70/2.80/2.90/3.00/3.10/3.20/3.30/3.40/3.50/3.60/3.70/3.80/3.90/4.00/4.10/4.20/4.30/4.40/4.50/4.60/4.70/4.80/4.90/5.00																								

検討中の青ねぎ生育予測システムのイメージ

■西予市管内の農福連携（いちご作業）の定着に向けて

- 西予農業指導班は、農福連携推進の一貫として昨年実施したいちごの管理作業について、「出荷箱折り作業」や「収穫終了後の残渣処理」、「資材の片付け作業」等のマッチングが好評であったことから、生産者の要望を調査したところ多数の希望があり、市内の就労継続支援施設（2施設）と希望農家との作業受委託について支援した。
- 現在、7戸の生産者と就労支援施設が直接連絡を取り、作業内容と日程を調整し農作業を進めており、7月は、いちご栽培後の残渣処理やポットへの土入れの作業が多く、3～5人の施設利用者と職員がいちごハウス等に出向き作業が行われている。
- 作業委託した農業者からは、「暑い中、ハウス内での作業は心配だが、就労支援施設も暑さ対策にも対応してもらえ、作業が進み助かった」との声も聞けるなど好評であった。
- 管内における他品目の作業についても農福連携への関心が高まっており、今後はいちご以外の農作業マッチング支援を行い、取組拡大に努める。



施設利用者によるポット土入れ作業

南予地方局八幡浜支局 産地戦略推進室

■令和3年度「第2回南予マルシェ」を八幡浜で開催！

- 南予地方局と八幡浜支局の産地戦略推進室は7月8日、八幡浜銀座商店街の八日市に合わせて「第2回南予マルシェ」を開催した。
- 今回は、「道の駅清流の里ひじかわ」「みかんの花工房」に加え、「特産センター^{かんかんびより}甘柑日和」「一次産業女子ネットワーク・さくらひめ」「川之石高校」の3店舗が初出店し、ピーマン、トマト、ナス等の旬の野菜の他、マーマレード、ジュースなどの加工品を販売。
- 川之石高校からは、花苗や各種柑橘とイチジクのジャム、一次産業女子の遊子川「ザ・リコピンズ」からは、標高600mのトマトを使った「ユズポン」や「ケチャップ」、さらに内子町・大洲市の「ぶらいまりい」からは、珍しい西洋野菜やピクルスなど話題の商品も数多く出品され、目当ての商品を買い求める客で賑わった。
- 次回は、8月16日（月）に宇和島恵美須町商店街で開催する予定で、引続き感染防止対策を徹底した上で、イベントの充実・定着に取り組みながら、農産物の販売促進・PRを通じて生産者の所得確保に努める。



地元高校生と支局管内の一次産業女子がともに初出店

■フィンガーライムの生産安定に向けて基礎生理を学ぶ！

- 産地戦略推進室は7月14日、みかん研究所で「フィンガーライム産地化検討会」を開催し、生産者や関係機関担当者ら25人が参加した。
- 当日は、「新たな果樹産地づくり推進事業」における令和2年度の活動実績、販売状況や果樹類登録農薬の使用上の注意について報告があり、参加者で情報を共有した。
- みかん研究所からは、育種素材としてフィンガーライムの利用を進めていく上で基礎的な花器の構造や結実特性についての調査報告があり、今後、安定生産技術の確立に繋がると期待されることから、生産者は熱心に耳を傾けた。
- 当室は、栽培技術確立や販売支援を通じて、引き続きフィンガーライムの産地化を推進していく。



フィンガーライムの結実特性について学ぶ生産者

農産園芸課 高度普及推進グループ

■マイクログリーン栽培技術の確立により県内外の飲食店への販売開始

- 高度普及推進グループは、国内外で需要拡大が見込まれているマイクログリーンの栽培技術を確立する栽培実証に取り組んでおり、実証に取り組む大洲市の農業法人は、7月16日から収穫した4品種について、県内外の飲食店及び量販店に販売を開始した。
- 当グループによる実証では、LED利用の閉鎖型育苗システムと太陽光利用ハウスの高設ベッドでの栽培実証が進んでおり、四国中央市でも同様の実証を行っている。
- なお、生産物は当グループのマッチング支援により、現在、県内の高級飲食店やホテルで料理を彩るつま物やサラダ野菜として利用されており、これまでにない彩りや日持ち性から高い評価を受けている。
- 当グループでは、引き続きマイクログリーン栽培技術の確立に取り組むとともに、多様な販売先を確保することにより、高収益が確保できる品目として栽培モデルの確立に取り組む。



収穫されたマイクログリーン

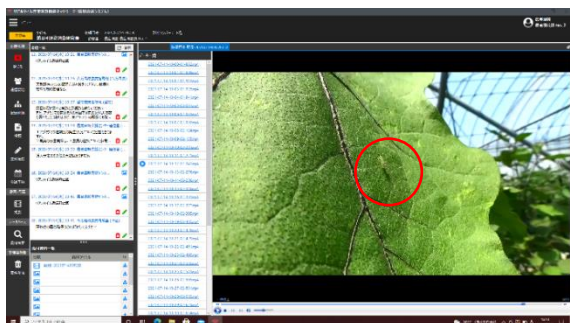


高設ベッドでのマイクログリーン栽培

- マイクログリーン：葉菜類を発芽から一定期間、莖軸を伸長させ本葉展開までに収穫する栽培で、色彩が豊かで高い栄養価を持つ食材として、現在、飲食店等で注目されている食材

■現地映像のライブ配信による普及・JA 職員向け技術研修会を開催

- 高度普及推進グループは、7月14日、伊予市のJA えひめ中央野菜新規就農研修施設において、普及指導員野菜調査研究会を開催した。
- 同会は、県内で野菜の栽培指導を行う普及指導員及びJA 営農指導員を対象に開催したもので、中予地方局の担当者からタバコカスミカメを天敵とするスリップス類の防除実証及びリアルタイム栄養診断の手法が説明されるとともに、JA えひめ中央からは同施設の取組が紹介された。
- なお、研修の様子は、リアルタイム農業普及指導ネットワークシステムを活用し各普及拠点等に生配信され、映像をリモートで見た職員からは、システムのチャット機能を通して多くの質問が寄せられた。
- なお、当日の録画映像は、普及拠点、研究機関等の100人以上の職員に再編集して提供されており、今後も当グループでは、職員が直接現地に赴かなくても研修できるよう同システムを活用した研修会等を開催する。



システムでの現地ライブ映像の視聴画面



研修現地からのライブ映像の配信

■閉鎖型育苗施設における「さくらひめ」の育苗実証を開始

- 高度普及推進グループは7月14日、県育成デルフィニウム品種「さくらひめ」におけるLED照明を利用した育苗技術の確立に向け、県内農業法人と連携して閉鎖型育苗システムによる育苗実証を開始した。
- これは、「さくらひめ」は従来品種よりも草勢が弱いという特徴等により、より多くの採花本数を確保するため、閉鎖型育苗システムによる通年の良質苗生産技術確立を目指し実施するもの。
- 本実証では、閉鎖型育苗システムにおける「さくらひめ」の適正な温度条件やかん水及び施肥管理等を確認することとしており、事前の試験では、セル一杯に根巻きした良質な苗が生産できることが確認されている。
- 当グループは今後、関係機関と連携して、「さくらひめ」の良質苗育苗技術及び日長等を調整した開花技術を確立することにより、切り花、鉢物として長期間の出荷が可能な生産体系の構築に取り組む。



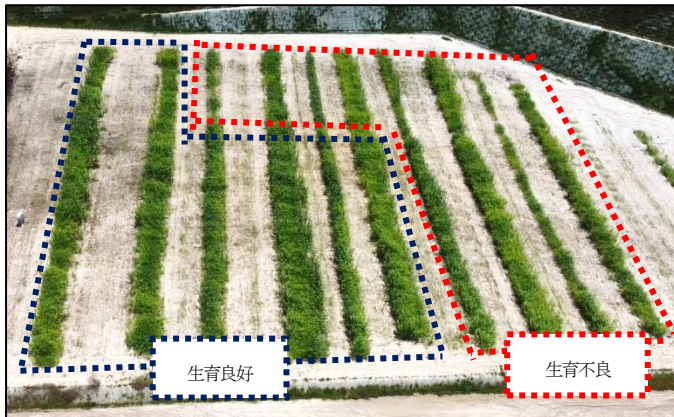
閉鎖型育苗システムの苗の状態 (7/14 播種)



閉鎖型育苗システムでの事前試験苗 (7/20)

■かんきつ基盤整備ほ場における緑肥作物栽培後の土壌調査を実施

- 高度普及推進グループは、松山市下難波地区の基盤整備ほ場で行っている土壌改良及び流亡対策の効果を確認するとともに、ソルゴーの生育に大きな差が生じている要因等についての調査を実施した。
- 今回の調査では、ソルゴーの生育が良好な場所では、整備前の表土が残り肥沃な土壌となっている一方、生育が不良な場所では、保肥力や保水力の弱い地山の花崗岩母材主体の土壌となっていることを確認した。また、ドローンによる上空からの撮影により、ほ場内でソルゴー等の生育が不良となっている場所を特定し、今後、重点的な土壌改良が必要な場所を特定することが可能であることを確認した。
- 当グループでは、引き続き基盤整備地における緑肥作物の栽培による土壌改良や土壌流亡対策技術を検証するとともに、土壌改良資材を効率的に利用した土壌改良方法等を検討する。



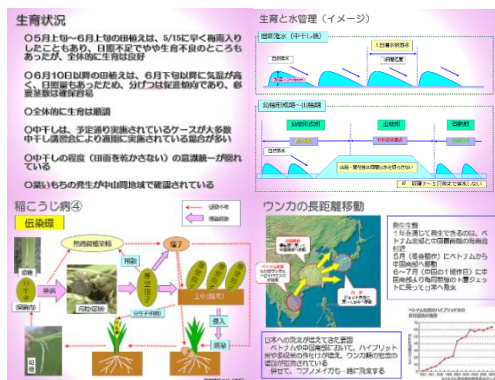
ドローン画像から生育差をマッピング



土壌調査で生育差の原因を解明

■ひめの凧「出穂管理（穂肥・防除）マニュアル」の策定について

- 高度普及推進グループは、県オリジナル育成品種「ひめの凧」の栽培管理を徹底するため、「出穂管理（穂肥・防除）マニュアル」を策定した。
- マニュアルは、6月に公開した「中間管理（中干し・防除）マニュアル」に続くもので、県下の生育状況を基に、本年度の中干し後の水管理と、適期・適量の穂肥施用等について解説している。
- また、マニュアルでは、昨年度多発したトビイロウンカや梅雨の後半に確認されたいもち病等の発生条件や効果的な防除時期等についても写真や図で分かり易く解説している。
- 全40ページのマニュアルは、県ホームページでも公開するとともに、7月16日から地方局ごとに開催している講習会でも、生産者やJA営農指導員等に対し説明するなどして、栽培管理の周知・徹底を図っている。



出穂期管理マニュアル（県 HP 抜粋）



地方局での栽培現地講習会

■「ひめの凜」高品質生産に向け作物調査研究会を開催

- 高度普及推進グループは7月9日、各普及拠点の作物担当者や研究員等37人を対象に作物調査研究会をリモート会議形式で開催した。
- 同研究会では今年度、全国規模の米の食味コンクールでの入賞を目指す「ひめの凜金賞プロジェクト」に取り組んでいる。当日は、当グループから県下3カ所に設けている同プロジェクト試験の中間結果を報告。分けつ数を抑え無駄な籾をつけず大粒の良食味米を作るために実施した、ほ場の条件（標高、土質等）に応じた施肥、水管理、排水対策の効果について報告を行うとともに、各普及拠点の若手職員からも試験ほ場の状況等が報告された。
- また、当グループからは、昨年引き続き県内外の食味コンクールで高い評価を受けたほ場の調査結果を報告し、中干し前後の根域の状態等について説明を行った。
- 当グループは、「ひめの凜」高品質・良食味米栽培技術の確立に向け、引き続き各試験ほ場の生育調査、分析を行っていく。



動画によるリモート会議での説明画面



優良園における根域調査結果

■リアルタイム農業普及指導ネットワークシステムの研究機関向け説明会を開催

- 高度普及推進グループは、7月15日、「リアルタイム農業普及指導ネットワーク」のシステム及び運用に関する部内研究機関向けの説明会を果樹研究センターで開催した。
- このネットワークは、昨年度から県内のシステム会社と開発を進めてきたもので、説明会の開催は先月の部内各課を対象に県庁で開催した説明会に次ぐもの。
- 説明会では、スマートフォンで撮影された現地映像を、県庁の農産園芸課と農林水産研究所の職員がリアルタイムで確認し診断している様子や、職員に操作方法を説明するために作成した映像等を紹介し、システムの活用方法等に関する質疑等を行った。
- 当グループは、引き続きデジタル技術やデータを活用した業務の効率化及び人材育成等に取り組む。



リアルタイム農業普及指導ネットワーク説明会



システムの操作を説明する映像

■病害虫の遠隔診断のマニュアル化に向けたテスト診断がスタート

- 高度普及推進グループは、リアルタイム農業普及指導ネットワークシステムを活用した病害虫の遠隔診断の手法や手順をマニュアル化するための診断実証を開始した。
- 同実証は、地方局職員の協力を得て実際の診断から問題点を抽出するとともに、効果的な遠隔診断の手法や手順をマニュアル化するもの。
- 7日 20 日から各普及拠点の担当者や当グループ職員が送信した現地からの映像等を基に、県庁通信ルームで計 32 ヶ所の遠隔診断を行い、スマートフォンでの撮影法や遠隔診断の手法等について検討を行った。
- 当グループでは、デジタル顕微鏡等で撮影した映像を送信することにより、専門家が病害虫の同定を行う手法についても検討しており、引き続き同システムを活用した遠隔診断マニュアルの策定に向けた活動に取り組む。



現地からの映像送信による遠隔診断（県庁通信ルーム）



デジタル顕微鏡での病原菌の同定手順の確認

農産園芸課 企画調整グループ

■新規採用農業職職員を対象に農業大学校派遣研修を実施

- 企画調整グループは、新規採用農業職職員 16 名に対して、農業大学校派遣研修（前期）を実施した。
- 同研修は、普及職務の理解を深めるとともに、農業職としての実践的な技術や知識を身に付け、普及指導活動等の業務を円滑に推進するために実施したもの。
- 5 日間の研修では、農業大学校長及び農産園芸課長を講師とした講義により、農業職に求める業務の向き合い方や、普及指導員と J A 営農指導員との違い等について説明があるとともに、農業大学校職員からバックフォーやラジコン草刈機等の農業機械実習を受けた。
- また、当課高度普及推進グループの先輩職員と、同グループが取り組む指導現場での映像を交えながら、農業職の魅力や活動上の悩み等について意見交換を行った。
- 後期の研修は 11 月に実施し、栽培管理や病害虫診断等に関する知識を習得する予定。



農産園芸課長の講義



先輩職員との意見交換

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543